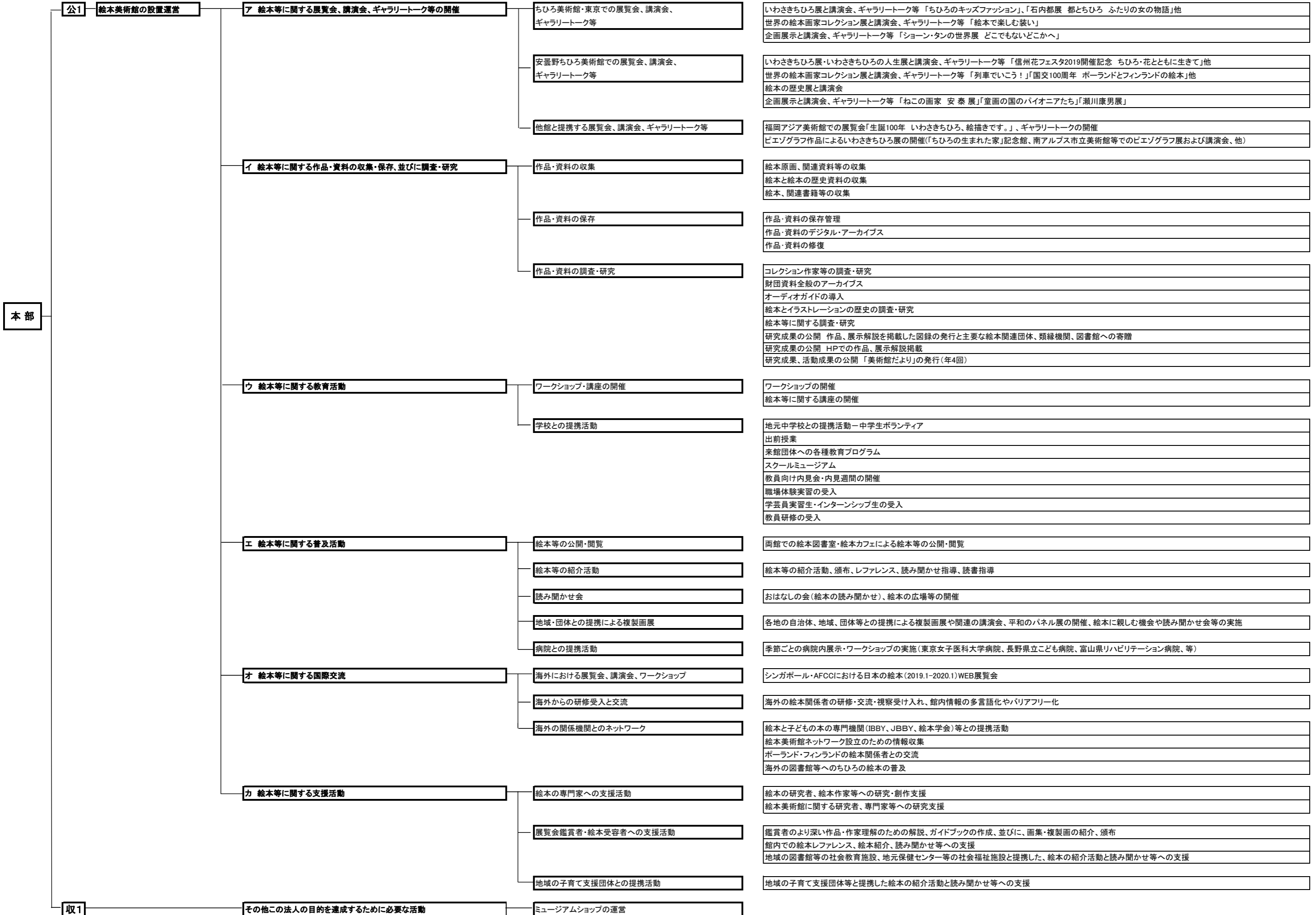


2019年度 事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

| | | | |
|----|-------------------|-------|---|
| I | 2019年度事業報告 事業の体系図 | | 1 |
| II | 2019年度事業報告一覧 | | 2 |

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 2019年度事業報告一覧(案)

| | | |
|----|--|---|
| 受賞 | 2019年カール賞の架け橋賞 (Carle Honors: Bridge) | エリック・カール絵本美術館(アメリカ)が創設したカール賞(Carle Honors)の架け橋賞(Bridge)を、絵本のイラストレーションを扱う美術館としての世界に先がける活動と、イラストレーションを大切にしている世界の美術館に影響を与えたことを理由に、授与された。 |
|----|--|---|

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|----|-------|------|----|---------------|------|
|----|-------|------|----|---------------|------|

公1 絵本美術館の設置運営

ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等の開催

| ■ちひろ美術館・東京での展覧会、講演会、ギャラリートーク等 | | | | | |
|-------------------------------|--|---|-----------|------------------|-----------|
| 【いわさきちひろ展】 | ちひろ美術館×文化服装学院 共同企画 ちひろのキッズファッション | 本展ではちひろが描いたおしゃれな子どもたちに焦点をあてて紹介するとともに、文化服装学院との共同企画として、服装科の学生たちが授業のなかで取り組んだちひろの絵からイメージを拡げて制作した子ども服10点を、実際に子どもたちが着た写真やデザイン画などの資料とともに展示した。(共催:学校法人文化学園 文化服装学院) | 8,370名 | 3月1日～5月6日 | ちひろ美術館・東京 |
| | ちひろが描いた日本の児童文学 | 戦後日本の児童文学の歴史とちひろの画業との関わりを探るとともに、ちひろが好んだ小川未明や宮沢賢治の文学を描いた作品や、社会問題や戦争をテーマにした作品なども紹介し、ちひろが描いた日本の児童文学の数々を紹介した。 | 23,522名 | 5月11日～7月28日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 「ちひろさんの子どもたち」谷川俊太郎×トラフ建築設計事務所 | ちひろが描き続けた「子ども」をテーマに、詩人の谷川俊太郎と、トラフ建築設計事務所とのコラボレーションを行った。ちひろと谷川の個性は異なるが、その絵と詩がとなりあうとき、別々に味わうのとはまた違う、豊かな世界が立ち上がる。トラフが目にした「ぼうし」のモチーフが空間をつなぎ、ワークショップスペースとしてぼうし型の「子どものへや」も設置、子どもの世界を体感できる展覧会とした。 | 12,249名 | 8月2日～10月27日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 石内都展 都とちひろ ふたりの女の物語 | 写真を始めた28歳のときから、母の旧姓名を名乗ってきた写真家・石内都。石内は「いわさきちひろ」の人生を知るにつけ、2歳しか年の変わらない自分の母親「藤倉都(旧姓・石内)」との重なり気付きに気付いたという。本展では、石内がちひろの遺品を撮り下ろした新作「1974.chihiro」と母の遺品を撮影した代表作「Mother's」を展示するとともに、ふたりの生前の写真も展示した。石内の視点を通して同じ時代の空気を吸って生きたふたりの女の物語を語る展覧会となった。 | 10,773名 | 11月1日～2020年1月31日 | ちひろ美術館・東京 |
| 【世界の絵本画家コレクションの展示】 | ちひろ美術館コレクションのなかから、装いに注目して、その土地の文化や風土が表れた民族衣装や、物語の登場人物を表す装い、絵本を彩った洒落な子どものファッション等が描かれた作品を展示する。絵本ならではの、さまざまな時代や地域、物語のなかの豊かな装いを紹介した。 | (8,370名) | 3月1日～5月6日 | ちひろ美術館・東京 | |
| 【企画展示】 | <企画展> ショーン・タンの世界展 どこでもないどこかへ | オーストラリアの画家・映像作家、ショーン・タン(1974～)は1999年に刊行した絵本『ロストシング』(The Lost Thing)を元に2010年に短篇アニメーション映画を発表し、アカデミー賞の短篇部門の賞を受賞した。タンが手がけたテキストのないモノクロの絵本『アライバル』(Arrival)は、各国語に翻訳されて、日本でも、その独自の世界観と表現方法で、熱狂的な大人のファンを獲得した。本展は、タンの全面的な協力のもとに開催される初の大規模な個展となった。 | (23,522名) | 5月11日～7月28日 | ちひろ美術館・東京 |
| 【講演会】 | 「ちひろのキッズファッション」展示関連講演会 | 文化服装学院の朝日真専任教授が、いわさきちひろの作品に描かれている子どもたちの服装やファッションについて、服飾史の観点から注目し、時代背景やちひろならではの特徴を探り、検証を試みた。 | 40名 | 3月21日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 「ショーン・タンの世界展」関連 対談「ショーン・タンの世界を語る」岸本佐知子×柴田元幸 | ショーン・タンの作品の翻訳を手がけている岸本佐知子と、ショーン・タンと対談をしたことがある翻訳家の柴田元幸が、それぞれの視点からショーン・タン作品の魅力と翻訳について語った。 | 61名 | 6月29日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 「ちひろさんの子どもたち」展示関連 トラフによるアーティストトーク | トラフ建築設計事務所の鈴野浩一が、建築に関する考え方やちひろの「子どものへや」制作にあたっての思いを語った。 | 32名 | 8月3日 | ちひろ美術館・東京 |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|-------------------------------|------------------------------------|--|---|--------------------------|------------|
| | 「石内都」展示関連 石内都×上野千鶴子対談「ふたりの女の物語」 | 石内都と社会学者・上野千鶴子が、石内都の母親「藤倉都」と「いわさきちひろ」の生き方を通して、女が働くこと、生きることについて語り合った。 | 115名 | 11月30日 | ちひろ美術館・東京 |
| 【ギャラリートーク】 | 松本猛ギャラリートーク | ちひろの息子である松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。 | 各回20～30名 | 3月10日、5月19日、8月25日、11月10日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 夏休み子どもギャラリートーク | 夏休み期間中、小・中学生を対象としたギャラリートークを普及担当者が行った。 | 12名 | 8月19日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 石内都 ギャラリートーク | 写真家・石内都が作品や展覧会に込めた思いを語った。 | 約40名/約60名 | 12月14日/2020年1月25日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク | 開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。 | 各回10名～30名 | 毎月第1、3土曜日※ | ちひろ美術館・東京 |
| ■安曇野ちひろ美術館での展覧会、講演会、ギャラリートーク等 | | | | | |
| 【いわさきちひろ展】 | かわいいものが好き—いわさきちひろ展 | 「かわいいものが好き」と語っていたちひろが描いた子どもや花、犬やねこ、小鳥などの小さく愛らしい生き物たちには、そこに宿る命の輝きを感じられる。本展では、ちひろが好んで描いた”小さく、かわいい”ものたちを展示し、ちひろの感性や表現の工夫、絵に込めた思いを探った。 | 27,922名 | 3月1日～5月13日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 信州花フェスタ2019開催記念 ちひろ・花とともに生きて | ちひろの暮らしのなかには、常に花があった。東京の自宅の庭で四季折々の花を育て、黒姫高原の山荘で過ごすときには、両手いっぱいの花を摘んで持ち帰ったりしていた。花のある暮らしを楽しみながら、ちひろの絵筆はみずみずしい花の姿を紙の上に映し出している。本展では、花を愛し、花とともに過ごしたちひろの暮らしと、花の表現の変遷を紹介し、「花と子どもの画家」と称されるちひろの花の数々を展示した。 | 22,480名 | 5月17日～7月16日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | ちひろ・アンデルセンの世界 | デンマークの作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの童話は世代を超えて読み継がれている。終戦後、上京したちひろが、画家として立つきっかけとなったのも、アンデルセンの童話「お母さんの話」を紙芝居に描く仕事だった。旅好きだったちひろは、1963年には旧ソビエト連邦(現・ロシア)へ、1966年にはヨーロッパ各地を巡る旅行へ出かけている。異国の風土に触れた旅は、ちひろのヨーロッパを舞台にした作品にリアリティと臨場感を与えた。本展では、ちひろがアンデルセン童話を描くうえでの転機となった出来事や時代背景を通して、その表現の変遷をさぐった。 | 45,525名 | 7月20日～9月30日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | ちひろ・ていねいな暮らし | 絵本画家として活躍しながら一家の主婦として家庭を切り盛りしていたちひろは、忙しいなかにも、おしゃれを楽しみ、食事にも手をかけ、家族と過ごす居心地のよい住まいをしつらえた。ちひろの作品やその生き方を通して、「ていねいな暮らし」とはなにかを見つめ直す展示とした。 | 22,792名 | 10月4日～12月15日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | ちひろの人生 | ゆかりの品々や素描・スケッチをはじめ、影響を受けた画家の作品等を展示するとともに、ちひろの人生を紹介するパネルや生前を知る人たちの証言映像、ちひろの技法を拡大して見られるタッチパネル等により、ちひろの絵と人生、その人柄を伝える展示とした。 | | 通年 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 子どもの展示室「トットちゃんの家」 | 『窓ぎわのトットちゃん』に登場する電車の教室を一部再現し、教室のなかで勉強するような感覚でワークショップを開いたり、小さな穴をのぞいて楽しむ「のぞき箱」の他、日々自由に参加できるワークショップなど、トットちゃんの世界を通じて子どもたちの目線で楽しむことのできるプログラムや展示を行った。 | | 通年 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | | ちひろ美術館コレクション展 ねこ・ねこ・ねこ | 古来より世界各国で人間のパートナーとして共に暮らしてきたねこは、世界中の文化のなかに溶け込み、さまざまな姿で表現されている。愛らしく、優雅で、ときに神秘的な魅力を持つねこは、多くの画家たちにインスピレーションを与えてきた。本展では、コレクション作品のなかから、世界各国の絵本画家が描いたねこの絵から約50点を厳選して展示した。 | (27,922名) | 3月1日～5月13日 |
| 【世界の絵本画家コレクションの展示】 | ちひろ美術館コレクション展 列車でいこう! | 絵本画家たちは、さまざまな列車を作品や絵本に描いてきた。リアルに描かれたものから、想像の世界の不思議な列車まで、その表現はさまざまである。本展では、コレクション作品の中から、蒸気機関車から地下鉄まで、列車のあれこれを描いた作品を、生きている場合は画家からの言葉とともに紹介した。また、当館から一番近い場所にある電車、トットちゃん広場の電車の教室にも注目した。 | (22,480名) | 5月17日～7月16日 | 安曇野ちひろ美術館 |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|---------------------------|---|--|-----------|---------------|------------------|
| 【世界の絵本画家コレクションの展示】 | ちひろ美術館コレクション展 世界のおはなし | 古くからの民話や昔話、アンデルセンやグリムの童話など、100年以上の時を経て今なお世界中で愛されている物語は、洋の東西を問わず多くの絵本画家たちを魅了してきた。同じ物語を描いても、画家によって技法や表現方法が異なり、個性豊かな作品が生まれた。コレクション画家たちが描いた、おはなしの世界を紹介し、絵から物語を読み解く楽しさを感じられる展示とした。 | (45,525名) | 7月20日～9月30日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | ちひろ美術館コレクション展 国交100周年 ポーランドとフィンランドの絵本 | 2019年、日本とポーランドは国交樹立100周年、そしてフィンランドは外交関係樹立100周年を迎えた。これを機に、コレクション作家からポーランドのヴィルコン、ガウダシンスカ、グラビヤンスキ、スタシス、フィンランドのヴオリ、タイナ、カイラの作品を紹介した。 | (22,792名) | 10月4日～12月15日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| 【絵本の歴史展示】 | 絵本の歴史 | 紀元前エジプトの「死者の書」や4～5世紀のフランドルの時禱書、日本の絵巻物や江戸時代の草双紙、20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分け、紹介した。 | | 通年 | 安曇野ちひろ美術館 |
| 【企画展示】 | <企画展>—童画運動の旗手— ねこの画家 安泰展 | 1920年代後半から「コドモノクニ」に絵を描き始め、童画の二世世代といわれる仲間たちのなかで中心的な役割を担ってきた安泰(1903～1979)は、戦後も真っ先に童画の再興に取り組み、リアリズムに根差した愛らしい動物たちを、子どもの本に描き続けた。本展では、得意としたねこの絵を中心に、安泰の絵本や童画の数々を紹介するほか、戦前から戦後にかけての童画界の動向とそこに果たした安の役割を、数々の資料で紹介した。 | (27,922名) | 3月1日～5月13日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | <企画展>童画の国のパイオニアたち —日本童画家協会の7人— | 大正から昭和にかけて、「子供之友」「赤い鳥」「コドモノクニ」などの芸術性の高い絵雑誌が数多く刊行された。その黄金時代を支えた画家たちは、ひとつの芸術ジャンルとしての「童画」を確立すべく日本童画家協会を設立し、互いに競い合いながら、子どものためのイラストレーションを描いた。本展では、日本童画家協会を結成した岡本帰一、川上四郎、清水良雄、武井武雄、初山滋、深澤省三、村山知義の作品を紹介し、彼らが目指した「童画」を展覧した。 | (45,525名) | 7月20日～9月30日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | <企画展>瀬川康男 坦雲亭日乗—絵と物語の間(あわい) | 絵本界の鬼才と呼ばれた画家・瀬川康男。1977年、東京から群馬県の北軽井沢に移り住み、植物写生に没頭した瀬川は、1982年には、長野県の青木村の古い民家に居を移す。「坦雲亭」と名付けたこの家で、友人や編集者、愛犬たちとの交流を深めながら、自作の絵本や壮大な歴史絵本『絵巻平家物語』シリーズなどを生み出していった。本展では、日記「坦雲亭日乗」やノートに綴ったことばを手がかりに、絵本原画、タプローなどを展示し、「絵をつかまえて生きようと思った」と語った画家・瀬川康男の絵にかけた思いと人生に迫った。 | (22,792名) | 10月4日～12月15日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| 【講演会】 | 「列車でいこう」展示関連講演会 鉄道好き集まれ！ 鉄道博物館の方に聞いてみよう！ | 鉄道博物館の学芸部長、猿山彰が、展示作品に描かれた列車の解説や「トットちゃん広場」の電車の教室「モハ」「デハニ」の由来や魅力について語った。 | 38名 | 6月9日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 鈴木まもる講演会「絵本と鳥の巣のふしぎ」 | 絵本作家・鳥の巣研究者でもある鈴木まもるが「絵本・自然・子育て・日々の絵本づくり」について語った。(共催：松川村図書館) | 41名 | 9月8日 | 松川村・すずの音ホール |
| | 「童画の国のパイオニアたち 日本童画家協会の7人」展示 関連 講演会 「童画家・武井武雄の刊本の世界」 | イルフ童画館の学芸員、河西見佳による講演会を開催するとともに、武井武雄の刊本や「コドモノクニ」の復刻版を、参加者が実際に手にして見ることのできる機会も提供した。 | 22名 | 9月16日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 「瀬川康男坦雲亭日常 絵と物語のあわい」展示関連 スライドトーク「瀬川康男坦雲亭日常 絵と物語のあわい」 | 展覧会の担当学芸員が、瀬川康男の画業とその魅力について語った。 | 20名 | 10月19日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| 【ギャラリートーク】 | 「ちひろ・ていねいなくらし」展示関連 松本猛ギャラリートーク | ちひろの息子である松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。 | 40名 | 10月5日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク | 開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。 | 各回10名～30名 | 毎月第2、4土曜日※ | 安曇野ちひろ美術館 |
| ■他館と提携する展覧会、講演会、ギャラリートーク等 | | | | | |
| | 生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。 | 2018年から引き続き、ちひろを改めて「絵描き」として捉える展覧会を開催した。新出の資料も交えて生涯を辿りながら作品を分析し、今の時代の中で改めてその魅力を探るとともに、童画家としてのちひろのイメージの刷新に挑んだ。 | 27,419名 | 4月20日～5月26日 | 福岡アジア美術館(福岡県福岡市) |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|---------------|--|--|---------------|--|---------------------------|
| 【展覧会】 | ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展 | ピエゾグラフによる複製画展を、開催希望自治体、団体、施設と協力をして行った。合わせてギャラリートークや講演会、水彩技法ワークショップなども実施した。 | 計6402名 | ①3月20日～6月8日 ②6月19日～9月7日 ③9月18日～11月30日 ④12月11日～2020年3月1日 | 「ちひろの生まれた家」記念館(福井県越前市) |
| | | | 6,397名 | 4月13日～5月19日 | 丹波市立植野記念美術館(兵庫県丹波市) |
| | | | 12,347名 | 7月13日～8月31日 | 南アルプス市立美術館(山梨県南アルプス市) |
| 【展覧会】 | ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展 | ピエゾグラフによる複製画展を、開催希望自治体、団体、施設と協力をして行った。合わせてギャラリートークや講演会、水彩技法ワークショップなども実施した。 | 6,313名 | 10月12日～11月24日 | 神奈川県立地球市民かながわプラザ(神奈川県横浜市) |
| | 絵本原画ニャー展 猫が歩く絵本の世界 | 瀬川康男『ふたり』原画5点を展覧した。 | 15,633名 | 7月6日～9月1日 | 青幻舎(尾道市立美術館) |
| | 金の船・金の星 子どもの本の100年展 | 長新太『ないた』原画4点、岡本帰一原画3点を展覧した。 | 約7,000名 | 7月19日～7月28日 | 金の星社(上野の森美術館) |
| | うらしまたろう絵本原画展 | いわさきちひろ『うらしまたろう』原画6点を展覧した。 | 5,512名 | 7月20日～9月23日 | イルフ童画館(長野県岡谷市) |
| | 子どものための建築と空間展 | 清水良雄原画2点、赤羽末吉『スーホの白い馬』原画2点、瀬川康男『いないいないばあ』原画3点を展覧した。 | 13,431名 | 7月27日～9月8日 | 青森県立美術館 |
| | 紅子と省三—絵かき夫婦の70年—展 | 深沢省三の原画6点を展覧した。 | 7,189名 | 9月14日～11月10日 | 岩手県立美術館 |
| | うちだりさこ展 | ラチョフ『てぶくろ』ピエゾグラフ6点を展覧した。 | 1,042名 | 9月29日～12月1日 | 小さな絵本美術館(長野県岡谷市) |
| 生誕110年まど・みちお展 | 赤羽末吉の原画10点、国際アンデルセン賞画家賞記念メダル等の資料を展覧した。 | 3,467名 | 11月15日～12月22日 | 周南市美術博物館(山口県周南市) | |
| 【講演会】 | 母、いわさきちひろについて | ちひろの息子である松本猛が、ピエゾグラフ展にあわせて講演会を行った。 | 97名 | 7月30日 | 南アルプス市立美術館 |
| 【ギャラリートーク等】 | 「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」展 ギャラリートーク | ちひろ美術館シニア・アソシエイト、主任学芸員の上島史子が、展示の見どころなどを、展示室を巡りながら解説した。 | 約50名 | 4月20日 | 福岡アジア美術館(福岡県福岡市) |

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

| | | | | | |
|----------|---|---|--|----|----|
| 作品・資料の収集 | 絵本原画、関連資料等の収集 | いわさきちひろの作品65点(寄贈2点、返却63点)、藍沢ミミ子小品2点(寄贈)、赤羽末吉作品23点(寄贈)、田畑精一作品1点(寄託)、マーシャ・ブラウン作品1点(寄贈)、茂田井武作品5点(寄贈)、瀬川康男作品4点(寄贈)、八島太郎作品2点(寄贈)、初山滋はがき1点(寄贈)、石内都作品29点(7点購入、22点寄託)、安泰作品28点(寄贈)を、新規に収集した。 | | 通年 | 両館 |
| | 絵本と絵本の歴史資料の収集 | 茂田井武関連書籍26冊の他、コレクション関連古書2冊、絵本の歴史関連資料を84冊(寄贈と購入)を新規に収集した。 | | 通年 | 両館 |
| | 絵本、関連書籍等の収集 | 優れた芸術性を持つ、魅力的な絵本の収集を進めた。 | | 通年 | 両館 |
| | 作品・資料の保存管理 | 絵本原画を中心とした収集作品の適切な保存管理を行うとともに、画像データベース等での作品整理を進めた。 | | 通年 | 両館 |
| | 作品・資料のデジタル・アーカイブス | いわさきちひろと世界の絵本画家の作品・資料のデジタル・アーカイブスを右記の点数行った。 | ・ちひろ(ピエゾグラフ32点・絵本データ制作6冊)・世界の絵本画家(ピエゾグラフ13点・絵本データ制作2冊・スキャンング20点) | | 通年 |
| 作品・資料の修復 | 支持体、画材とも脆弱な水彩画であるいわさきちひろ作品や、世界の絵本画家作品の作品、資料等の修復作業を、適宜行った。 | | | 随時 | 両館 |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|-------------|--|---|-----------------|---------------|------|
| 作品・資料の調査・研究 | コレクション作家等の調査・研究 | コレクション作品の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行い、調査資料のドキュメンテーションを進めた。また、戦前から戦中にかけての「日本童画家協会」や、「日本童画会」「ぐるーぷ車」等の童画運動について調査を進めた。 | | 通年 | 両館 |
| | 財団資料全般のアーカイブス | いわさきちひろの作品や遺品などの一次資料、一次資料を基に製作された印刷物等の二次資料、その一次・二次資料にまつわる資料等を網羅的に集約、管理するためのアーカイブ、ならびに検索システムの構築を3年計画で進めるための調査を行った。2019年度は、先行して作品の画像データベースの新システムへの移行を行った。あわせて図書データベース、ちひろの遺品データベース等の調査ならびにデータ移行の準備を進めた。 | | 2019～2021年度 | 両館 |
| 作品・資料の調査・研究 | オーディオガイドの導入 | これまでのいわさきちひろと絵本の研究に基づき、ちひろの人と作品の紹介、ちひろ美術館の基本的な情報や活動の魅力を38コンテンツ×7言語(音声:日・英/テキスト:日・英・繁・簡・韓・露・西)で整え、来館者自身のスマートフォンで楽しむことのできるデジタルガイドとして導入した。 | | 12月25日運用開始 | 東京館 |
| | 絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究 | 両館で開催する展覧会ならびに、他館と協力して行う絵本の歴史展等に向けて、絵本とイラストレーションの歴史に関する調査・研究を進めた。 | | 通年 | 両館 |
| | 絵本等に関する調査・研究 | ショーン・タンや安泰、瀬川康男等、新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について調査・研究を進めた。 | | 通年 | 両館 |
| | 研究成果の公開 作品、展示解説を掲載した図録の発行と主要な絵本関連団体、類縁機関、図書館への寄贈 | 2018年のLife展の取り組みを書籍としてまとめた。またショーン・タン展や石内都展に関連した書籍に、作品解説、展示解説等をまとめた。また、それら図録等は、絵本関連団体、類縁機関、国際子ども図書館等の主要な図書館へ寄贈し、研究の一助としてもらった。 | | 通年 | 両館 |
| | 研究成果の公開 HPでの作品、展示解説掲載 | 調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、HPにアップロードし、国内外にむけて発信した。 | | 通年 | 両館 |
| | 研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(年4回) | 研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、年4回発行する「美術館だより」やHPを通じて、公開した。 | 各館ごとに年4回・計8回の発行 | 通年 | 両館 |

ウ 絵本等に関する教育活動

| | | | | | |
|---------------|---|---|---------|------------------------|-----------|
| ワークショップ・講座の開催 | ワークショップ ちひろの水彩技法体験 | いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。*文化庁:平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業 | 計384名 | 8月5～7日、2020年1月2～3日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび | 0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した(講師:服部雅子・西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)。*文化庁:平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業 | 計110名 | 3月30日、6月29日、9月7日、12月7日 | ちひろ美術館・東京 |
| | あかちゃんのための鑑賞会 | 0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会を開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。*文化庁:平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業 | 計38名 | 11月4日、2020年1月13日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 子どものための鑑賞会 | 3歳児～小学1年生とその保護者を対象にした、幼児～児童のための鑑賞会を開催した(講師:富田めぐみ・NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表)。*文化庁:平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業 | 計30名 | 11月4日、2020年1月13日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 子どもの幸せと平和を考える講座 親業講演会「—今日から実践できる— 子どもに気持ちが伝わる話し方」 | 「親業訓練」を通して、親子のよりよいコミュニケーションを学ぶ講演会を開催した(講師:田中満智子・親業訓練協会インストラクター)。*文化庁:平成31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業 | 40名 | 10月19日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 「ちひろさんの子どもたち」展示関連企画 ワークショップ 「帽子を描こう」 | トラフ建築設計事務所の「子どものへや」で、子どもたちがちひろの絵とのコラボレーションが楽しめるワークショップを常時開催した。 | 計3,833枚 | 8月2日～10月27日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 展示関連のおはなしの会 | ねこや電車、アンデルセンの紙芝居など、展示に関連した絵本や紙芝居を紹介するおはなしの会を開催した。 | 計86名 | 4月20日、6月15日、7月6日、9月7日 | 安曇野ちひろ美術館 |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|-------------------|--|---|------------------|--|----------------------------------|
| | 「ちひろ・花とともに生きて」展示関連企画 ちひろの花めぐりツアー | 担当学芸員のギャラリートークとともに、安曇野ちひろ公園の花や樹木について、ちひろ公園を巡りながら、トットちゃん広場サポート隊が解説を行った。 | 17名 | 5月19日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 「ちひろ・花とともに生きて」展示関連企画 ワークショップ「花を楽しむ」 | 担当学芸員のギャラリートークとともに、木下いずみを講師に、生花でフラワーアレンジメントづくりを楽しむワークショップを開催した。 | 9名 | 6月1日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 鈴木まもるワークショップ「鳥の巣をつくらう」 | 絵本作家・鳥の巣研究者でもある鈴木まもるを講師に、干し草や手芸用品などを使って、鳥の巣をつくるワークショップを行った。共催：松川村図書館 | 22名 | 9月8日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | ワークショップ 中学生ボランティアと楽しむ夏休み「ちひろの水彩技法体験」 | いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。 | 計1,219名 | 8月1日～16日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| ワークショップ・講座の 開催 | あかちゃんと保護者のための鑑賞会「ファーストミュージアムデー」 | 「ベビーカーでお出かけしよう！」と題して、乳幼児とその保護者を対象に、子どもと一緒に美術館を楽しめる、ファーストミュージアムデーを開催した。展示を中心に館内各所での鑑賞会や、絵本の読み聞かせ、ふれあい遊びも行う。長野県の「いい育児の日」の11月19日にも開催した。 | 計20名 | 4月18日、11月19日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』ワークショップ | 安曇野ちひろ公園トットちゃん広場と安曇野ちひろ美術館館内において、ちひろの絵が数多く掲載されている『窓ぎわのトットちゃん』の様々なエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の人々や地元の学校の協力を得て、開催した。 | | 随時 | 安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館 |
| | ちひろ忌 | いわさきちひろの命日にあわせてギャラリートーク等を行い、ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どもの幸せと平和を願ったちひろの思いを、来館者と共に考える機会とした。 いわさきちひろの命日にあわせて、松川中学生による『わたしがちいさかったときに』朗読会や平和パネル『わたしがちいさかったときに』の展示を行い、子どもの幸せと平和を願ったちひろの思いを来館者と共に考える機会とした。 | 383名 853名 | 8月8日 | ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館 |
| 学校との提携活動 | 地元中学校との提携活動—中学生ボランティア | 松川中学校と連携し、夏休み期間中、中学生ボランティアを育成し、来館者を対象にした、当館での体験ワークショップ、ガイドツアー、絵本の読み聞かせ、『わたしがちいさかったときに』朗読会を行った。 | 延べ172名 | 8月1日～16日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 出前講座 | いわさきちひろやちひろの絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前講座を、学校等に出向いて実施した。 | 計3回・90名 | 2020年1月14日、1月15日、1月21日 | 杉並区立三谷小学校 |
| | | | 計6回・273名 | 6月1日、11月15日、11月16日、11月27日、12月7日、12月20日 | 松川小学校・大桑中学校・古厩地区公民館・国営アルプスあづみの公園 |
| | 学校団体への各種教育プログラム | 授業や修学旅行などで来館した学校や特別支援学校を対象に、ちひろの水彩技法ワークショップや美術館探検、トットちゃん広場オリエンテーリング、読み聞かせなどを組み合わせた館内外での教育プログラムを行った。 | 計16回・731名 | 4月25日、5月17日、5月31日、6月20日、7月3日、7月22日他 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | スクールミュージアム | 長野県内の希望校を対象に、展覧会の作り方を指導、複製画等の貸し出しを行い、生徒の力で展覧会が開催できるよう生徒キュレーターを育成を行った。 | 1校 | 9月26日～10月4日 | 大桑中学校(木曾郡大桑村) |
| | 教員向け内見会・内見週間の開催 | 教員を対象とする内見会・内見週間を開催、学校との連携活動を行った。 | 27名 | 5月11日～5月19日、8月2日～8月11日、11月1日～11月10日 | ちひろ美術館・東京 |
| | | | 17名 | 8月1日～10日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 職場体験実習の受入れ | 練馬区近辺、松川村近辺の高校や中学校からの職場体験実習を受入れ、学校との連携活動を行った(東京館:石神井中学校3名、石神井南中学校3名、上石神井中学校3名、井草中学校3名、都立立川国際中等教育学校5名 /安曇野館:松川中学校2名)。 | 17名 | 6月27日～28日、7月9日～10日、8月5日～7日、9月10日～12日、10月1日～2日、12月11日～13日 | ちひろ美術館・東京 |
| | | | 2名 | 9月4日～5日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | 学芸員実習 インターナショナル生の受入 | 学芸員実習希望者の受入(東京館:学習院大学1名、駒沢女子大学1名、十文字学園女子大学1名 /安曇野館:信州大学1名、長岡造形大学1名、京都造形芸術大学1名、筑波大学1名)と、大学からのイ | 計3校・3名 | 8月2日～3日、8月5日～6日、8月19～21日、8月24日、8月31日 | ちひろ美術館・東京 |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|------------------|--------------------------------------|---|--------|-------------------------------|-----------|
| | 中国における、いわさきちひろピエゾグラフ展 | 120点のピエゾグラフにより、いわさきちひろの画業の全体を紹介する展示を中国の各地において開催する予定で準備を進めた。 | | 随時 | 中国 各地の開催地 |
| 海外からの研修や来館者受入と交流 | 海外の絵本関係者の研修・交流・視察受け入れ | 海外の絵本画家や編集者など絵本関係者を対象に、求めに応じて美術館の視察を受け入れた。 | 計4回・8名 | 6月29日、6月30日、7月25日、8月12日-8月13日 | 両館 |
| | 館内情報の多言語化やバリアフリー化 | さまざまな国やニーズをもった来館者に対応すべく、館や展示の紹介等のバリアフリー化を進めた。 | | 随時 | 両館 |
| 海外の関係機関とのネットワーク | 絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBBY、絵本学会)等との提携活動 | 絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY (International Board on Books for Young People)や、国内の専門機関であるJBBY、絵本学会、全国絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、絵本文化の発展のための相互協力に努めた。 | | 随時 | 両館 |
| 海外の関係機関とのネットワーク | 絵本美術館ネットワーク設立のための情報収集 | 国を超えた絵本美術館ネットワークを構築するために、調査を行い、情報交換を行った。 | | 随時 | 両館 |
| | ポーランド・フィンランドの絵本関係者との交流 | 安曇野ちひろ美術館で開催する展覧会「ポーランドとフィンランドの絵本」に関連し、日本・ポーランド年、日本・フィンランド年である今年を好機として、未だ、いわさきちひろとちひろ美術館を知る人が少ないそれぞれの国の絵本作家や絵本関係者と交流を深めた。 | | 随時 | 両館 |
| | 海外の図書館等へちひろや日本の絵本画家の絵本の普及 | 海外の国際交流基金や公立図書館等に、ちひろや日本の絵本画家の絵本を紹介し、普及に努めた。 | | 随時 | 両館 |

カ 絵本等に関する国際交流

| | | | | | |
|--------------------|--|--|------|-----|---------------------|
| 絵本の専門家への支援活動 | 絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援 | 絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家からの問い合わせに応え、レファレンス等を行った。 | | 随時 | 両館 |
| | 絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援 | 絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を提供し、その活用をもって研究活動を支援した。 | | 随時 | 両館 |
| 展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動 | 鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布 | 鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、館内配布やWEB配信をするとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して作品鑑賞を手助けする活動を行った。 | | 随時 | 両館 |
| 展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動 | 館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援 | 絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に絵本の紹介や、読み聞かせの方法等について指導を行った。 | | 随時 | 両館 |
| | 地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援 | 地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスをを行い、地域住民が生活のなかで日常的に絵本が楽しめるよう支援した。 | | 随時 | 両館 |
| 地域の子育て支援団体との提携活動 | 地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援 | 松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とその保護者を対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスをを行った。 | 計42名 | 年6回 | 安曇野ちひろ美術館／松川村保健センター |

その他

| | | | | | |
|-------|-----------|--|--------------------------------------|-----------------|-----------|
| 被災地支援 | 災害支援の取り組み | 東日本大震災の被災証明を提示した来館者は全員無料とした。 | 東京館 3名 安曇野館 24名 | 通年 | 両館 |
| | | 館内の来館者に対し、台風19号災害等日本各地での被災地支援の義援金を呼びかけた。 | | 通年 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | | 大規模災害に係る被災博物館復興支援事業に学芸職員1名を派遣した。 | 2回・1名 | 2020年1月8日、1月23日 | ちひろ美術館・東京 |
| | 高校生以下無料 | 子どもたちがいつでも訪れることができる場所として、2005年以降行ってきている高校生以下無料入館の対応を、ひきつづき行った。 | 東京館6,893名 安曇野館12,919名 計19,812名 | 通年 | 両館 |
| | | | 518名 | 5月18日(国際博物館の日) | 安曇野ちひろ美術館 |

| 事業 | 個別事業名 | 実施内容 | 実績 | 実施時期(実施日・回数等) | 実施場所 |
|-----------|-----------------------|--|-----------------------------------|------------------------------|-----------|
| 無料入館日 | 無料入館日の取り組み | 美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。なお安曇野館では、近隣市町村の人々により当館に親しんでもらうため、松本市から白馬村までの近隣市町村ごと、長野県民対象とした無料入館日を、右記の通りそれぞれに設けた。 | 65歳以上の方対象 東京館 42名 安曇野館 151名 | 9月16日(敬老の日) | 両館 |
| | | | 計1,114名 | 池田町・生坂村:6月9日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | | | | 大町市:6月16日 | |
| | | | | 松本市:6月23日 | |
| | | | | 安曇野市:11月10日 | 安曇野ちひろ美術館 |
| | | | | 白馬村・小谷村:11月17日 | |
| 長野県:12月1日 | | | | | |
| 無料入館日 | 無料入館日の取り組み | 美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。なお安曇野館では、近隣市町村の人々により当館に親しんでもらうため、松本市から白馬村までの近隣市町村ごと、長野県民対象とした無料入館日を、右記の通りそれぞれに設けた。 | (383名) | 8月8日(ちひろ忌ノウ 絵本等に関する教育活動にも記載) | ちひろ美術館・東京 |
| | | | (853名) | | 安曇野ちひろ美術館 |
| | | | 684名 | 12月15日(いわさきちひろの誕生日) | ちひろ美術館・東京 |
| 支援会員制度等 | 支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み | 当財団およびちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。 | 支援会員数441名 (新規60名・継続381名) | 通年 | 両館 |

収1

| | | | | | |
|-------------------------|---------------|---|--|----|----|
| その他この法人の目的を達成するために必要な活動 | ミュージアムショップの運営 | 来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行った。 | | 通年 | 両館 |
|-------------------------|---------------|---|--|----|----|

※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年3月に予定していた、両館でのギャラリートーク(ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等)、ならびに、読み聞かせ会(エ 絵本等に関する普及活動)等を中止した。

■2019年度事業報告 入館者数一覧(案)

1.絵本美術館の設置運営

2019年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京 52,629名、安曇野ちひろ美術館 115,126名、両館合計で167,755名となった。

■ちひろ美術館・東京

2019年4月～2020年3月 入館者数内訳(月別)

| 月 | 開館日数 | 有料入館者数 | | 無料入館者数 | | | | | | 全入館者数 | 1日平均入館者数 |
|------|------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|------------------|--------|--------|----------|
| | | 大人 | 小計 | 中学生 | 小学生 | 幼児 | 支援会員 | 招待者 その他無 料 | 小計 | | |
| 4 | 26 | 2,573 | 2,573 | 67 | 138 | 262 | 11 | 297 | 775 | 3,348 | 129 |
| 5 | 25 | 4,759 | 4,759 | 56 | 176 | 314 | 16 | 528 | 1,090 | 5,849 | 234 |
| 6 | 26 | 6,451 | 6,451 | 71 | 151 | 376 | 14 | 485 | 1,097 | 7,548 | 290 |
| 7 | 25 | 10,107 | 10,107 | 425 | 341 | 440 | 18 | 935 | 2,159 | 12,266 | 491 |
| 8 | 29 | 3,318 | 3,318 | 588 | 423 | 547 | 20 | 481 | 2,059 | 5,377 | 185 |
| 9 | 25 | 2,625 | 2,625 | 56 | 184 | 395 | 21 | 246 | 902 | 3,527 | 141 |
| 10 | 23 | 2,535 | 2,535 | 19 | 131 | 322 | 12 | 326 | 810 | 3,345 | 145 |
| 11 | 26 | 2,755 | 2,755 | 152 | 62 | 254 | 17 | 513 | 998 | 3,753 | 144 |
| 12 | 23 | 1,623 | 1,623 | 43 | 137 | 222 | 11 | 868 | 1,281 | 2,904 | 126 |
| 1 | 26 | 3,299 | 3,299 | 46 | 86 | 318 | 23 | 344 | 817 | 4,116 | 158 |
| 3 | 10 | 449 | 449 | 15 | 29 | 47 | 3 | 53 | 147 | 596 | 60 |
| 合計 | 264 | 40,494 | 40,494 | 1,538 | 1,858 | 3,497 | 166 | 5,076 | 12,135 | 52,629 | 199 |
| 構成比 | | 76.9% | 76.9% | 2.9% | 3.5% | 6.6% | 0.3% | 9.6% | 23.1% | 100.0% | |
| 前年合計 | | 38,511 | 38,511 | 1,382 | 2,070 | 5,047 | 142 | 5,886 | 14,527 | 53,038 | 191 |
| 前年比 | | 105.1% | 105.1% | 111.3% | 89.8% | 69.3% | 116.9% | 86.2% | 83.5% | 99.2% | 104.5% |

- * 2019年4月～2020年3月の入館者総数は52,629名(1日の平均入館者数199名)。2018年度に比べ409名の減少(前年比99.2%)。目標数50,000人に対しては2,629名多く、目標達成率105%となった。
- * 3月は新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として3/4～19及び3/28～31を臨時休館した。
- * 入館者の内訳は有料入館者数40,494名(全体の76.9%)、無料入館者数12,135名(全体の23.1%)。
- * 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料含む):中学生:小学生:幼児が、87:3:3:7(2018年度は84:3:4:9)。
- * ちひろの命日8月8日を「ちひろ忌」とし、入館料を無料とした。
- * 例年通り、敬老の日(9月16日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。
- * 12月15日に感謝デーを実施し、全入館者684名の入館料を無料とした(2018年度は1,455名)。
- * 年間パスポートの販売数は262枚・659,000円、リピーターを含む延べ利用者数は1,064名。
- * 「ぐるっとパス」入館者数は3,484名(2018年度3,058名、前年比114%)で、有料入館者の9%(2018年度は8%)、入館者全体の7%(2018年度は6%)。
- * 外国人利用者は、年間で1,001名(前年比200%)。外国語入館案内の配布数内訳は、英語37.3%、韓国語22.3%、中国語簡体字(中国本土)15.4%、中国語繁体字(台湾・香港・マカオ)25.1%。
- * 3月より、入館料を800円→1000円に改定した。

■安曇野ちひろ美術館

2019年4月～2020年3月 入館者数内訳(月別)

| 月 | 開館日数 | 有料入館者数 | | 無料入館者数 | | | | | | | 全入館者数 | 1日平均入館者数 |
|------|------|---------|---------|--------|-------|-------|-------|-----------|------------|--------|---------|----------|
| | | 大人 | 小計 | 中学生 | 小学生 | 幼児 | 支援会員 | その他無 料 | 松川村 招待者 | 小計 | | |
| 4 | 29 | 8,032 | 8,032 | 255 | 530 | 618 | 5 | 745 | 208 | 2,361 | 10,393 | 358 |
| 5 | 27 | 12,433 | 12,433 | 449 | 803 | 651 | 8 | 1,349 | 271 | 3,531 | 15,964 | 591 |
| 6 | 29 | 8,607 | 8,607 | 164 | 109 | 299 | 11 | 1,043 | 215 | 1,841 | 10,448 | 360 |
| 7 | 27 | 10,173 | 10,173 | 296 | 564 | 554 | 3 | 1,254 | 216 | 2,887 | 13,060 | 484 |
| 8 | 31 | 19,587 | 19,587 | 1,206 | 2,060 | 1,520 | 9 | 2,376 | 342 | 7,513 | 27,100 | 874 |
| 9 | 29 | 10,214 | 10,214 | 100 | 286 | 556 | 7 | 883 | 207 | 2,039 | 12,253 | 423 |
| 10 | 27 | 9,173 | 9,173 | 59 | 126 | 273 | 4 | 888 | 201 | 1,551 | 10,724 | 397 |
| 11 | 29 | 7,602 | 7,602 | 65 | 245 | 398 | 9 | 920 | 153 | 1,790 | 9,392 | 324 |
| 12 | 15 | 1,705 | 1,705 | 23 | 55 | 127 | 3 | 629 | 134 | 971 | 2,676 | 178 |
| 3 | 30 | 2,126 | 2,126 | 164 | 168 | 196 | 8 | 330 | 124 | 990 | 3,116 | 104 |
| 合計 | 273 | 89,652 | 89,652 | 2,781 | 4,946 | 5,192 | 67 | 10,417 | 2,071 | 25,474 | 115,126 | 422 |
| 構成比 | | 77.9% | 77.9% | 2.4% | 4.3% | 4.5% | 0.1% | 9.0% | 1.8% | 22.1% | 100.0% | |
| 前年合計 | | 106,234 | 106,234 | 3,238 | 5,608 | 6,171 | 73 | 13,497 | 2,457 | 31,044 | 137,278 | 516 |
| 前年比 | | 84.4% | 84.4% | 85.9% | 88.2% | 84.1% | 91.8% | 77.2% | 84.3% | 82.1% | 83.9% | 81.7% |

- * 2019年4月～2020年3月の入館者総数は115,126名(1日の平均入館者数422名)。2018年度に比べ22,152名の減少(前年比83.9%)、目標数140,000名に対しては24,874名の未達(達成率82.2%)となった。
- * 2019年度は、展示替え以外の休館日を第4水曜のみとし、ちひろの誕生日の12月15日まで開館。開館日数は2018年度より7日多い273日となった。
- * 入館者の内訳は、有料入館者数89,652名(全体の77.9%)、無料入館者数25,474名(全体の22.1%)。
- * 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料、松川村含む):中学生:小学生:幼児が89:2:4:5(2018年度も89:2:4:5)。
- * 5月18日の国際博物館の日とちひろの命日8月8日のちひろ忌は、入館料を無料とした。
- * 例年通り、敬老の日(9月16日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。
- * 2019年度は、白馬から松本までの各市町村ごとの入館無料デーと長野県民無料デーを実施し、計1,114名が来館(2018年度は2,186名)。内訳:6月9日 池田町民・生坂村民(175名)、6月16日大町市民(66名)、6月23日松本市民(294名)、11月17日 白馬村民・小谷村民(56名)、12月1日長野県民(419名)。2020年3月8日(松川村民)と、同3月22日(長野県民)は、新型コロナウイルス感染防止のため、中止した。
- * 年間パスポートの販売数は62枚・155,000円、リピーターを含む延べ利用者数は316名。
- * 有料入館者数のうち、旅行会社等のクーポン利用者数は10,486名。有料入館者全体に対するクーポン利用率は11.7%(2018年度は10.7%)。
- * 団体入館者数は、20,792名(2018年度は25,034名・前年比83%)。入館者全体に対する団体の割合は18.0%(2018年度は18.2%)。団体入館者のうち、台湾や韓国など海外からの来館者は823名と前年より140名減少(2018年度は963名)。
- * 入館者115,126名のうち、団体入館者数を除く、一般入館者数は、94,334名(2018年度は112,244名。前年比84%)。
- * 3月より、入館料を800円→900円に改定した。

■2019年度 事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。